

日本財団

「子ども第三の居場所事業」

長崎県長崎市における

「子ども第三の居場所」

学習・生活支援モデル

～2024年度 活動報告書～



特定非営利活動法人

フリースクールクレイン・ハーバー

もくじ

- はじめに P2
- 事業概略 P3~4
- 1日の活動内容 P5~6
- 事業の成果と反省 P6
- 「保護者デイ」 P7~12
- 保護者の感想 P13
- 子どもたちの感想 P14
- スタッフの感想 P15~18



はじめに

特定非営利活動法人 フリースクールクレイン・ハーバー

代表 中村 尊

「子ども第三の居場所（学習・生活支援モデル）」を運営した3年間を振り返ると、子どもたちはケンカすることもありましたが笑い声に溢れていた日々でした。スタッフもボランティアも楽しそうに笑って過ごしていました。イベントなどでお世話になった地域の方々も温かい笑顔で包んでくださいました。みんなが笑顔で過ごせる場だったことが一番大きな意義でした。

「子ども第三の居場所」で子どもたちはそれぞれのペースで成長しました。お手伝いを率先してするようになったり、夕食のメニューのリクエストをするようになったり、一緒に遊ぶゲームの提案をしたり。主体的に（お客様のようにではなく）生活している感覚になればなるほど優しく気遣いができるようになっています。それは、この場所では競争原理ではなく共存原理が働いているからだと、共存の意識が主体性と協調性を育んでいると感じます。

スタッフやボランティアにも恵まれました。彼らには支援臭がしません。ひとり親世帯や経済的困窮世帯など困難を抱えている家庭の子どもが来ていますが、スタッフは「可哀そう」とか「支援の対象」という視点は持っていない。「おいしいものを一緒に食べよう」とか「楽しく過ごそう」という感覚で寄り添っています。遊ぶ時もおとな子ども関係なく本気で遊んでいます。そんな関わりが信頼を生み安心できる居心地の良さを育んだと思います。

「子ども第三の居場所」は大家族のように、異年齢の子どもがいて、お兄さんお姉さんみたいなボランティアがいて、おじさんおばさんのようなスタッフがいる。大人数での食事はいろんな話が飛び交います。誰かが中心の話ではなくみんなの話がでてきたり、黙っていることも許容されます。ともすると家庭での会話は学校での出来事や成績の話題が中心となり息が詰まっているかもしれません。話したい子が話す聞きたい子は聞く。そんな和やかで温かい時間が、自己受容や他者理解を進めるのではないかと思います。

共存意識、安心を感じれる環境、和やか温もりの中で自己受容と他者理解ができるから笑顔で過ごせる。子どもたちが笑顔で過ごしてくれると、私たちおとの心も穏やかになります。自然と来てくれる子どもたちに感謝の気持ちも湧いてきました。「子ども第三の居場所」の取組みを多くのおとなに、市民に知って頂くことで、地域のあちらこちらで子どもの笑顔が咲き、おとなにも心のゆとりができるよう、この成果報告書が役立てればと思っております。

事業に助成していただいた日本財団様、ありがとうございました。そして、スタッフのみんな、ボランティアの皆さん、イベントでお世話になった皆さん、参加してくれた子どもたちと保護者の皆さん、本当にありがとうございました。

皆様と、皆様の身近にいる子どもたちの笑顔が溢れますように

事業概略

【事業目的】

- ①地域の子どもたちが家庭の経済状況により学習の機会や色々な体験の機会を失うことが無いよう、家庭と学校以外に通える「第三の居場所」を開設・運営し
地域のみんなが、地域の子どもを育てる社会を目指す
- ②学習支援、生活支援（主に調理の手伝い）を通じて、子どもたちに生き抜く力を身に付けてもらうことを目指す
- ③家庭内で子育てを抱え込んでしまうことの抑止を目指す
- ④子どもたちが様々なコミュニティ、多様性のある関係の中で『自己受容感』と『他者理解力』を得ながら成長し、助け合い豊かな人生を送れる社会を目指す。

【対象者】

- 経済的困窮世帯・ひとり親世帯
 - 保護者が夜に仕事等で子どもだけで留守番をしている家庭
- ～2024年度利用者～

小学生 13名 中高生8名 年間利用者合計 21名

【協力団体】

- ・長崎市こども部こども政策課
- ・長崎市社会福祉協議会
- ・ながさき子ども食堂ネットワーク
- ・一般社団法人ひとり親家庭福祉会ながさき
- ・長崎大学やってみゅーでスク

【事業内容】

○利用者の募集について

- ・長崎市の子育て応援情報サイト「イーカオ」に掲載
- ・近隣の小学校への訪問および事業の説明
- ・当団体が運営している「学生服バンク」や「無料学習塾」の利用者への声掛け
- ・連携団体へのチラシ配布と利用者募集案内
- ・「夜間の居場所」専用のホームページにて事業の紹介と利用者の募集
- ・SNSでの情報発信や活動紹介

【夜間の居場所の運営】

月曜日から木曜日の週に4日、17時から21時まで

当団体施設を居場所として使用。

宿題のサポートや夕食の提供を主に行う。

希望者には送迎(有料)も実施している。

【保護者デイの開催】

月に1日程度の割合で土曜日もしくは日曜日に居場所を開所し、保護者も一緒に過ごすイベントデイを設けた。

今年度は2024年4月から2025年3月までの間に10回開催。

【相談受付】

子どもたち→夜間の居場所利用時間

保護者→保護者デイ

それぞれに相談できる時間を設け

また保護者には随時メールや電話での相談にも対応する。

| 日 の 活 動 内 容

①スタッフミーティング

月に2回程度スタッフが全員出勤し、子どもたちの様子などの振り返りをしながらスタッフミーティングを実施。活動日は当日の参加者の様子や食事の内容などをスタッフ専用のLINEグループにて報告しスタッフ内で情報を共有。保護者からの連絡や出欠連絡もLINEで共有し、スタッフ一人一人がどのように動くべきかを考え、子どもたちが安心・安全に楽しく過ごせるよう努めた。

②子どもの送迎

下校した子どもたちを

・学校・自宅・習いごと先・学童など

指定された場所へスタッフが専用のマイクロバスで送迎を行った。



③食事作り

食事作りの担当は参加者数の確認をし、献立を決め、子どもたちが喜んで食べてくれる夕食を提供してきた。今年度は食材の値段高騰や米不足もあったが、当法人が加盟している「ながさき子ども食堂ネットワーク」を通じて食材を提供していただいたり当法人のフリークール部門が農作業に取り組んでいる関係で野菜類・米が格安で仕入れることができたことは運営面でも非常に助かった。また各ご家庭にも食材を無料配布し大変喜んでいただけた。

④学習

子どもたちにはここへ来たらまず宿題をするように促している。ただ子どもたちも学校生活や習い事等で疲れて帰って來るので様子を見ながらひとりひとりのペースに合わせて声掛けを行う。宿題等で分からぬ箇所はスタッフや大学生のボランティアさんに教えてもらいながら進め、宿題がない子は勉強している子どもの邪魔をしない様に過ごしている。

⑤夕食

夕食は子どもたちとスタッフ全員が揃ってから食べている。ここでは嫌いな物を無理に食べさせたりはせず、最初から食べたくない物は配膳せず、量も個人が食べたい分だけ配膳し廃棄することを極力無くせるよう努めた。また食事が楽しい時間になることを心掛けている。

⑥自由時間

夕食後は楽しい自由時間♪

ゲームをする子や工作を楽しむ子、ぬりえをする子など子どもたちがそれぞれにやりたいことを自由にできる時間を設けている。

⑦子どもの送り

帰りは保護者が迎えに来る子、送迎車で自宅まで送り届ける子もいるので保護者としっかり連絡を取り合い、その都度対応をしている。

事業の成果と反省

成 果

- ・利用した子どもたちが毎回楽しく過ごしてくれたことが一番の成果である。
入ってきた当初に比べると明らかな成長が見られる子が増えたこともとてもうれしい成果だと感じている。
- ・「子ども食堂ネットワーク」を通じて食材や物資の提供があったこと、農家から直接格安で野菜を購入することができた事で、物価高騰の中で食材の仕入れが大変ではあったが、利用者の食費を上げずに事業を継続することできた。また利用者家庭にも食品類を配布し大変喜んでいただけた。
- ・子どもたちや保護者との信頼関係が築かれ、色々なことを話してもらえるようになったと感じている。
- ・スタッフも当初と変わらないメンバーなので情報共有もスムーズに行われスタッフ同士の信頼関係も強くなった。またスタッフそれぞれに子どもたちが喜ぶことを考え実行してくれたことも非常に有難かった。

反 省

- ・子どもの登録者目標を達成できなかったことは残念だった。今年度はイベント等で事業周知の機会は前年度に比べても多かったが、子どもの利用には繋がっていない。また寄付金に関しても目標額の達成ができなかった。

保護者デイ

「保護者デイ」は月に1回程度開催しています。

この日は保護者にも活動に参加していただき、親子で楽しい時間を共有してもらうことを目的に様々なイベントを計画♪

土日は仕事の都合でなかなか参加できないという保護者もいらっしゃるので平日の夜に開催することもあります。

「保護者デイ」は親子にとって楽しい時間が共有できるだけでなくスタッフも保護者との交流を深める貴重な時間でした。

【4月：タケノコ掘り】

毎年恒例のタケノコ掘りに今年も参加しました。

ながさき県民の森のスタッフさんと一緒にタケノコを探すところから下茹まで、一通りの作業を子どもたちもします。

今年はどんな調理で食べようかな？



県民の森の職員さんに
タケノコの掘り方を
教わります！



見て見て～
収穫できたよっ！

外側の皮は剥いで
熱湯で湯がくよ！
食べれる部分が
少なくなったね(T_T)



【5月:螢鑑賞会】

昨年はあまり螢が飛んでいなかったので今年は違う場所へ行き
沢山の螢を見ることができました。
まっ暗い中を懐中電灯を照らしながら歩くので
肝試しのような雰囲気の中
子どもたちはキャーキャー言いながら
楽しんでいました。



【7月：キャンプ】

今年の夏季お泊りキャンプは

昼は「尻久砂里海水浴場」にて水遊びを楽しんでから

ながさき県民の森のバンガローに宿泊しました。

山の中でWi-Fiが使えずゲームができないなど、子どもにとっては不服なことがあったのですが、今日はゲーム以外の事で友達と一緒に楽しむと切り替えて過ごすことができました。

お泊り行事は子どもたちにはとても好評で「次はいつあるの？」とよく聞かれています(笑)



階段の上から
布団めがけて
ダービブッ!!
家じゃ絶対できんね(笑)

【10月：長崎くんち親睦会前夜祭】

一般社団法人**長崎青年協会**様より

昨年度に引き続きおくんち広場での前夜祭ご招待いただきました。

おくんち当日もゲームブースのボランティアに

子どもたちがお手伝いで参加し

貴重な体験をさせていただきました。



【11月/1月/3月：長崎ヴェルカ試合観戦】



リオンさんいつもありがとうございます ❤️*



長崎市を本拠地とするプロバスケットチームB1リーグ所属の「長崎ヴェルカ」で
プレーをされている松本健児リオン選手より
子どもたちを試合にご招待いただき
今年度は2回観戦してきました!
試合終了後には記念写真の撮影にも
応じてくださいり、子どもも保護者もスタッフも
大感激でした! ✨
また試合終了後にはコート内のモップ掛けや
観客席のゴミ拾いのお手伝いをさせていただきました!

【11月:ビーチクリーン活動】

メットライフ生命長崎本社様が行っている海岸清掃に

子どもたちと参加させていただきました。

清掃の後はバーベキュー(メットライフ生命社員様の寄付によるもの)

をご馳走になりました!



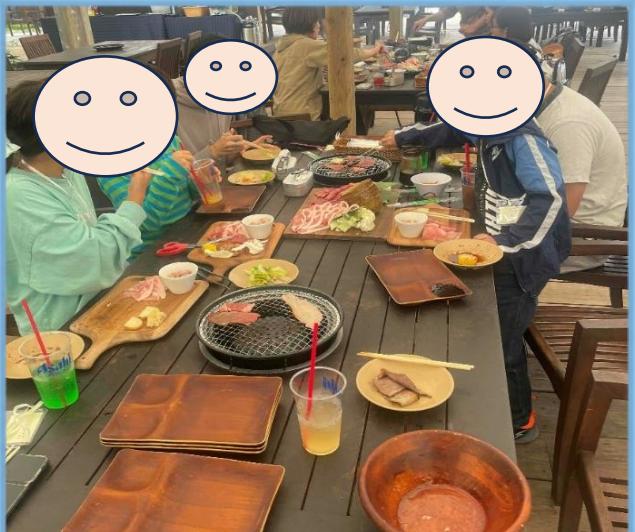
地域の方と一緒に清掃活動

少しの時間で沢山のゴミを
見つけました。

今後もこのような活動に
積極的に参加して
子どもたちと共に海洋ごみ問題に
取り組んでいきたいと思います!



海が綺麗になって嬉しいね!



バーベキュー最高♪

【12月:クリスマス会】

クリスマス会を開催しケーキを食べたり、ゲームをしたりして楽しく過ごしました。子ども食堂のネットワークを通して
スターバックスコーヒージャパン様 より子どもたちに
クリスマスプレゼントも頂きました!ありがとうございました(^^)



プレゼントありがとう!



ゲーム大会もしたよ

【2月:寿司職人体験】

長崎県鮨商生活衛生同行組合主催の「寿司職人体験」参加し
現役の寿司職人さんに寿司の握り方を教わり、みんなで食べるというとても
楽しい(嬉しい)イベントでした!
20名近い子どもたちが参加し「楽しかった~」と伝えてくれましたが
同じくらい保護者も楽しんでくださっていました(^^)



子ども達も超真剣



上手に握れたかな?

保護者からの感想

いつも夜の居場所を皆勤賞で利用させてもらいありがとうございます。子どもが1番大好きな居場所です。

いつもいっぱい遊んでもらったり、色々な体験をさせてもらえて親子共々感謝しています。

ひとり親で仕事が終わる時間が遅いため、留守番・ご飯の心配、宿題、子どもの相手ができないということ全て解決され、安心して働くことができました。帰ってからも子どもとお風呂の中でお話ししたり、私の心の余裕にも繋がっていました。時にはお電話での相談にも乗ってもらい本当に大切な居場所です。

長崎ヴェルカの試合に招待していただき、部活動でミニバスをしている我が子は初めてハピネスアリーナに行くことができました。

生でプロ選手のプレーを間近で観戦できとても喜び「また行きたい」と話してくれました。その後は部活動でも意欲的に練習に励んでいます。なかなか家計に余裕がなくヴェルカのチケットを購入もできず、本当に招待していただけることに感謝しています。

その他寿司職人体験やクリスマス会への参加時も、「まだいたかった。楽しかった」ととても満足そうでした。

とても貴重な体験をさせてもらえたんだと思います。

色々な体験に参加させてもらい子どもたちの思い出も増え、なかなか色々なところに連れて行ってあげられないで

子どもたちの感想

いつも美味しいご飯をありがとうございます。
夜間の居場所で過ごせる時間は短いけれど
行けば温かく迎えてもらえることが
とても嬉しかったです。



お泊まり会が
楽しかった！

またヴェルカの試合を
観に行きたい(^^)/

1番の思い出は長崎ヴェルカの応援に
行ってリオンさんと記念写真が
撮れたことです！

パンニャやウサギたちと
会えるのが楽しみだった



学校も学年も違うお友達ができて
「夜間の居場所」に来て
一緒に遊べることが
とっても楽しみだったよ♪



スタッフの感想

夜間の居場所では、子どもたちが楽しく過ごしてくれること、学校以外の友だちができること、他の子を思いやる気持ち馬鹿にしたことなど、子どもたちの様子や成長する姿に嬉しさを感じると共に「やってて良かった」という気持ちになります。それに加えて、保護者の安が穏やかな表情になられたり、安心されている様子にも存在意義を感じます。保護者の方も徐々に相談もしてくれるようになり、こちらが受けとめることで安心感が増している様子です。ひとり親であることや仕事であまり遊んであげれない負い目を感じている方も少なくありませんでしたが、夜間の居場所に通わせることでその負い目もなくなってきたことが表情にも現れています。

保護者デーに楽しんで参加してくださり、子どもと一緒に笑い合っていたりしてくれました。タケノコ掘りやすい職人体験、ビーチクリーンなどは、普段は経験することはありませんし、プロスポーツの観戦にはお金もかかります。そんなイベントに参加している親が楽しんでいる姿を子どもたちは見ることで、親への親近感が増しているようでした。親子の会話も、学校のことや勉強のこと、友だちのことだけではなく、親子で一緒に過ごすことの話題で会話が弾むようになったとおっしゃてくださる方もいました。そういう、保護者の皆さんの中や様子は、わたしたちスタッフの学びにもなっています。

長く通っている子の成長は、スタッフとして本当にうれしい限りですが、中学生になると徐々に巣立っていく感じで参加する日が減っています。しかし、それも成長の証、夜間の居場所で過ごした経験をベースに社会的自立に向かってくれている感じです。夜間の居場所を巣立って久しぶりに顔を見てくれる中・高校生が、すっかりお兄さんお姉さんになっていて、子どもの成長には驚かされますが、そんな子どもたちも夜間の居場所に通った支ことを「良かった」と言ってくれて、本当にありがとうございます。多くの子どもたちに、家庭と学校以外の、ホッと安心しながら過ごせる居場所があちらこちらにできるといいなあと思っています。

今年度も子どもたちが怪我をしたりすることなく、無事に事業を終えた事にまずはホッとしています。

ここで過ごす時間を楽しみに来てくれる子どもたち(^_^)

一緒に食事をしたり、ゲームをしたり、工作をしたり。

やりたいことは沢山あるのに楽しい時間はあつという間!

最近の子どもたちは習い事をしている子がほとんどで

しかも複数している子が多いことに驚かされます。

学校が終わってから習い事に行って、それから「第三の居場所」へ来るのは19時近くになる日も。それでもここに来たい!と思ってくれる子どもたちの気持ちに少しでも応えたいという気持ちでスタッフ一同取り組んできました。

日本財団の助成事業としては今年度が最終となりますが、

今後も夜間の居場所事業を継続し

地域の子育て支援の資源として

これからもたくさんのご家庭に

利用していただきたいと思っています。



今年度は物価の価格高騰や米の品薄など食事を提供する面では苦労が多くありました。当団体は「ながさき子ども食堂ネットワーク」に加盟していることで食材や日用品を提供していただいたり、お世話になっている農家さんから格安で野菜類を仕入れることができたりと「繋がり」に助けられ、大変有難さを感じた1年となりました。

利用家庭へも食品の配布を実施し、とても喜んでいただけました。

近年、経済的困窮世帯にスポットが当てられる中で世帯所得を基準とした

給付金の支援はありましたが、給付金は使ってしまえば無くなってしまいます。

貧困支援は長期間の継続支援が絶対に必要であると本事業を通して実感しており、今後どのような形で継続支援を行っていくべきなのか検討していく必要があります。

すべての子どもたちが今日という1日、今という時間を

安心して楽しく過ごせるよう

これからも地域の方々と共に活動に取り組んでいきたいと考えています。



私は夜間の居場所で子どもたちと接していますが
子どもの成長をとても感じる1年間でした。

小学校低学年の子どもたちには食べ終わった食器を下げる、ゴミを捨てたり、
遊んだ後のあと片付けをしたりなどできることは自分でしようと言っています。
はじめはなかなかしてくれませんでしたが、徐々にスタッフが言わなくともして
くれるようになりました。また、要所要所でスタッフにありがとうございますと感謝を伝えて
くれるようになった子もいてとても感激しました。

一方でいけないことをした子に注意したり怒ったりすることもありますが、
どのような言葉や態度で怒ることが効果的でわかつてもらえるのか考えること
もあります。

なぜしてはいけないのかを伝えることの難しさを感じています。
今後も成長を見守りながら一緒に過ごしていくことが楽しみです。

今年も子どもたちの沢山の笑顔を見ることができました。
またずっと継続して利用している子ども（小学生）の成長は著しいものがあり、
子どもたちと過ごす中で私たち大人も成長させてもらっていることにも気づ
かされました。

今年度はバスケットの試合や企業主催の海岸清掃など、地域の方から
声を掛けてもらう機会が増えたように思います。

この3年間「子ども第三の夜間の居場所」を運営してきた結果を少し
実感できたことも嬉しいです。

子どもたちを取り巻く環境には格差があり、
特に経済的困窮世帯においては保護者が疲弊し、そのことが子どもにも伝
染している家庭も少なくありません。今後も家庭全体を支援できる
「子ども食堂」の活動や、子どもが安心して過ごせる居場所等が増え、
社会全体で子どもたちの笑顔を守っていければと思っています。

「夜間の居場所」のスタッフとして活動を始めてから2年余り、色々な子ども達を見てきましたが、どの子どもも皆初めて会った時から年月が経つにつれ、少しづつ成長しているなあと感じます。

最初に会った時は恥ずかしそうにしてあまり会話が無かった子どもでも今では自分から「鬼ごっこして遊ぼう!」と言ったり「工作したいから手伝って」など、遠慮なく言ってくるようになりました。

また、複数の子どもが玩具や工作の道具などを同じ時に使いたい場合以前なら取り合いになってケンカしたりしていたのが、お互いに譲りあって使うようになったり。

今は低学年の子ども達が多く初めは手を焼いてばかりいたのが、皆だいぶ落ち着いてきて穏やかに過ごすことが増えました。

特に、しばらくスタッフとしての活動をお休みしていたあと、半年ぶりに子ども達と会ったら見違えるように大人になったように感じたことは驚きでした!

学校とはまた違う空間で過ごすことによって新たな成長がある「夜間の居場所」の素晴らしさが広く認知され、利用される子ども達が増えて更に賑やかになることを願っています。

私は今年度から夜間の居場所で勤務をさせてもらっているのでまだ1年も経っていないのですが、その間でも子どもたちはどんどん成長していくってとても感動しています!

特に私がきて間もないころは喧嘩が起きやすかったり、宿題やしたい遊びができないなどの理由でぐずったりする風景をよく見ていました。

でも少しずつお互いに歩み寄って一緒に遊んだり、どうしようもない問題に対して自分で解決策を考えて実行したりと、子どもって短期間でこんなにも成長するんだ!と子どもたちのことを尊敬しています(笑)
今年度も残りわずかですが、みんなが楽しく夜間の居場所で過ごせるように、お手伝いができたらなと思います(^^)



Supported by
 日本財団
THE NIPPON FOUNDATION

日本財団 子ども第三の居場所
2024年(令和6年)度
長崎県長崎市における「子ども第三の居場所」
学習・生活支援モデルの運営事業

編集発行

特定非営利活動法人

フリースクール クレイン・ハーバー

〒852-8145

長崎市昭和3丁目387-1

TEL:095-844-8899

FAX:095-844-8799

MAIL:crane_harbor@yahoo.co.jp



